

耕作放棄地で肉用牛放牧はできる －成功の鍵は「管理」にある－

- I. なぜ放牧なのか
- II. 成功のための準備
- III. 管理がすべて
- IV. まとめ



(一社) 日本草地畜産種子協会
放牧アドバイザー 梨木 守



- ◆ **耕作放棄地は条件が悪い。それでも放牧できる。ただし管理ができれば。**

- ✓ **分散、狭小地**
- ✓ **傾斜、棚田、段々畑**
- ✓ **獣害あり**



**水さえあれば、
放牧は可能
ただし、湿地はダメ**

◆ 放牧がもたらすもの

- ✓ 所得（エサ費削減、労力削減） ← 余裕のある働き方
- ✓ 牛の健康向上、アニマルウェルフェア → 繁殖成績良好
- ✓ 飼料増産対策・地域対策
 - 耕作放棄地対策
 - 地域資源循環
 - 粗飼料自給率向上
 - 低コスト経営、持続的畜産
 - 環境負荷低減（適正な放牧において）

◆ 耕作放棄地放牧の成立条件

- ✓ 水、日陰
- ✓ 柵／獣害対策を含む
- ✓ 馴致
- ✓ 適正頭数
- ✓ 看視

分散地でも可能／管理できる

岩手県奥州市/菊池牧場（120頭、約12ha）、半径約3キロ以内に8箇所の放牧地

日本草地畜産種子協会「放牧畜産って何」

https://souchi.lin.gr.jp/houboku/grassfarming/farm_016.html



◆ 放牧で失敗例. . .

✓ 草が足りない

✓ 柵が甘い

✓ 馴致不足

✓ 看視不足

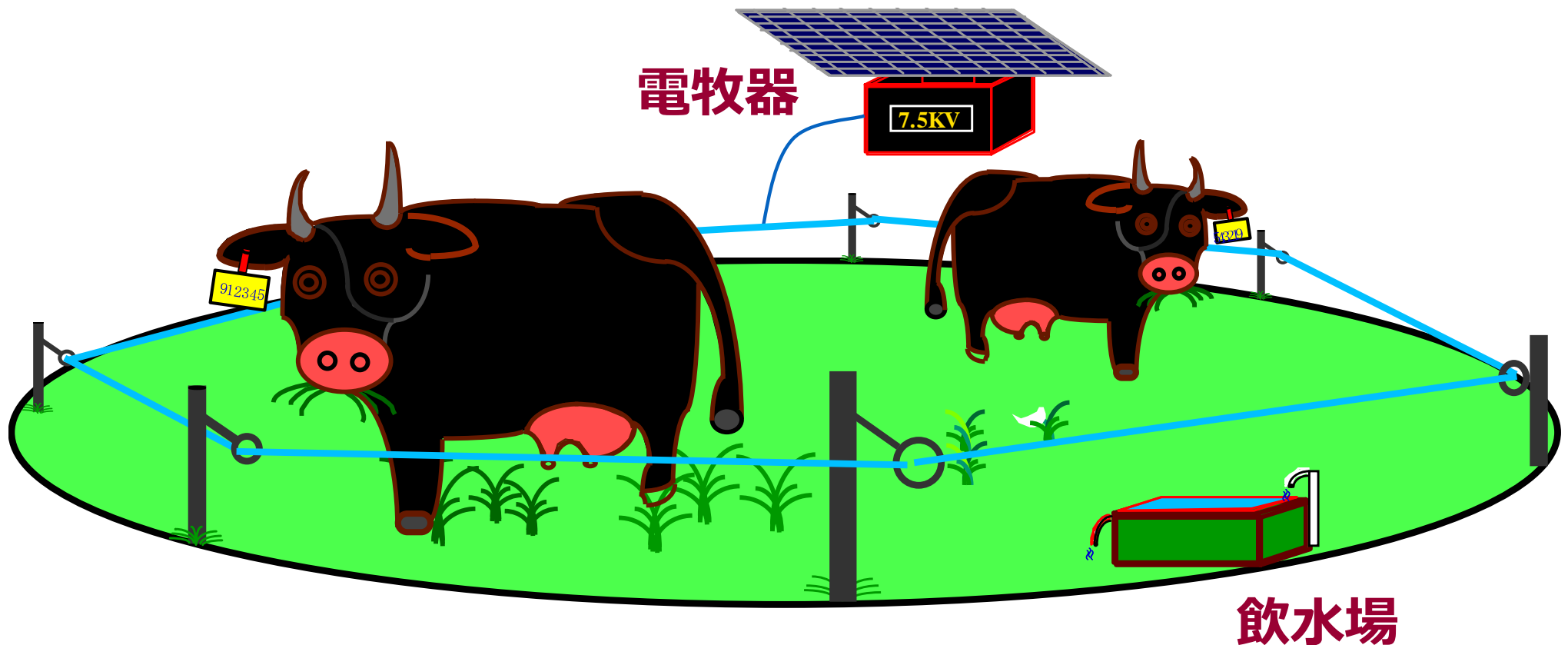
脱柵



放牧は難しくないが、甘くみると失敗する

◆ 放牧を始めるまでの手順

1. 放牧地を知る
2. 牧柵設置
3. 飲水場・電牧器設置
4. 放牧馴致
5. 徐々に牧草導入



◆ 放牧地を知る

- ✓ 面積、外周、傾斜
- ✓ 危険箇所



👉 必ず歩く



段差、溝など危険が潜む



転落対策 電気柵



排水対策

◆ 柵は命綱



敷設完成



電牧資材各種

👉 獣害対策も怠らない

- ◆ 水がなければ始まらない
- ✓ 飲用に適した水を与える ← 家畜飼養衛生管理基準
- ✓ むかるみを作らない、牛を小川などに入れない
- ✓ 日陰場所も必ず確保



きれいな飲水



むかるみ



<https://www.klenepipe.com/product/portable-livestock-shade-frame/>

1頭あたり約3.7～6.5m²

◆ 放牧馴致

👉 事故の多くは馴致不足

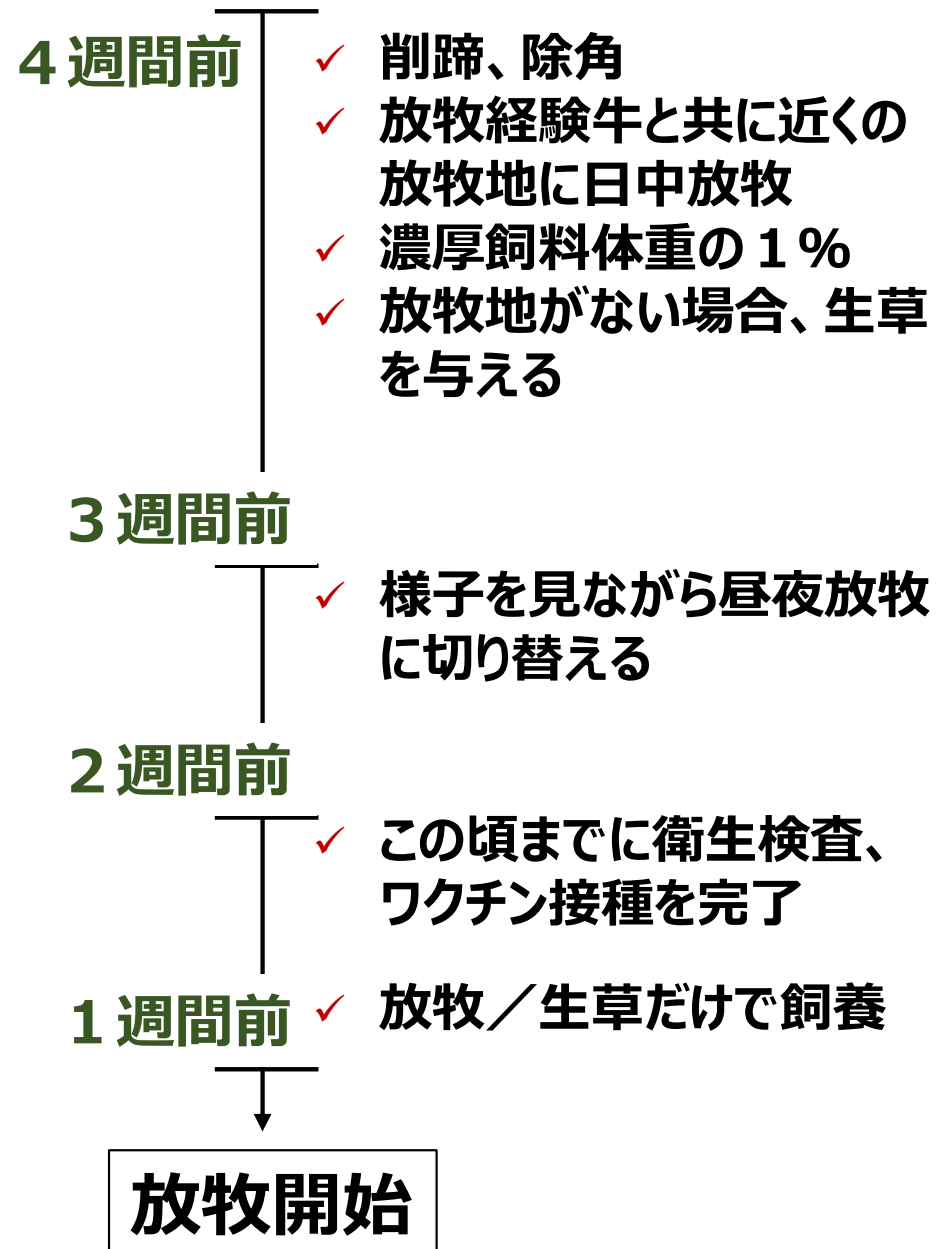
✓ 飼料馴致

1) 生えている草を自ら喰う
(胃の微生物の恒常性維持)

✓ 環境馴致

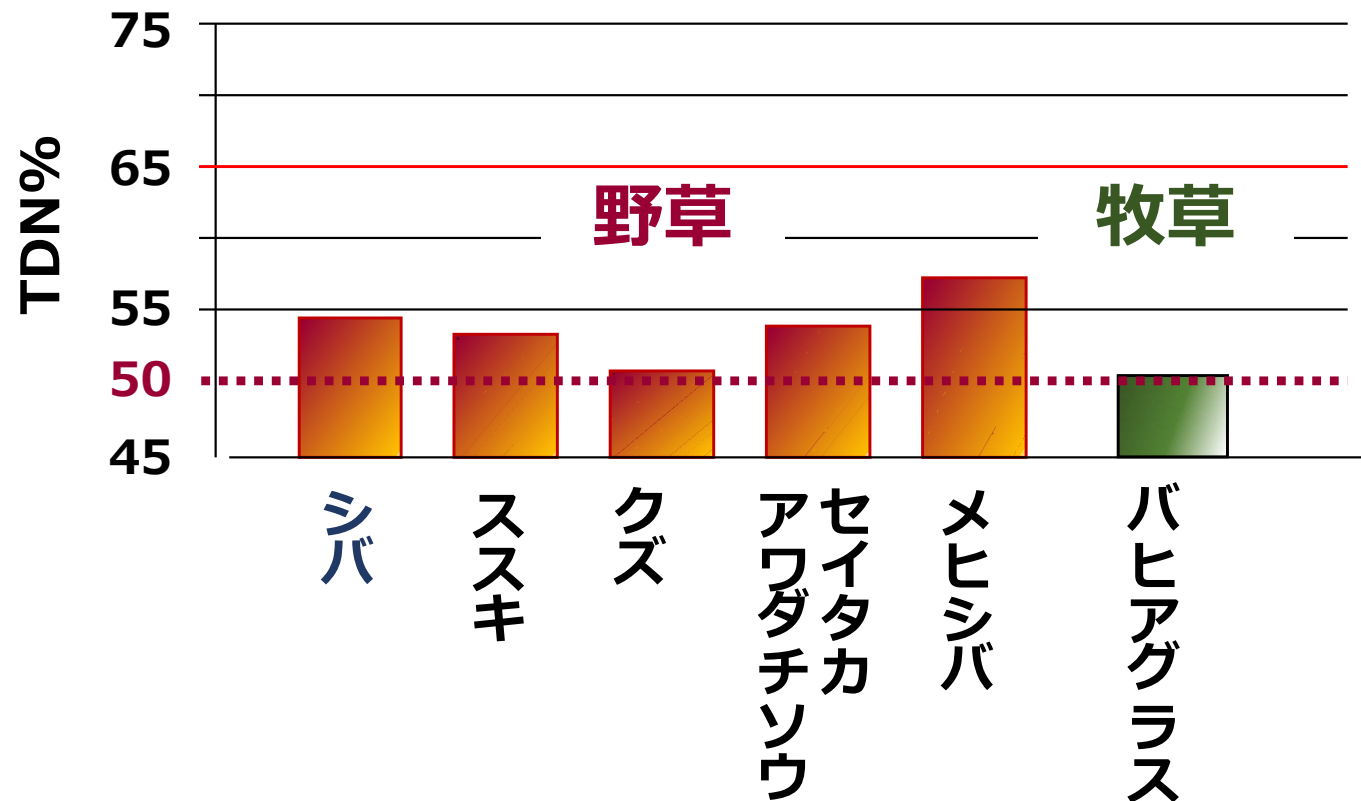
- 1) 気象・暑熱 (雨、風)
- 2) 群に慣れる
- 3) 運動に慣れる
- 4) 電気牧柵

✓ 運搬、ハンドリング



◆ 繁殖牛に必要な草

👉 TDNで約50%でOK、粗放な管理でも可能



日本標準飼料成分表等より作図

◆ 放牧地は牛が作る

粗放型／バヒア、シバ、センチピード、
バミューダグラス
無肥料でもOK！



シバ

集約型／トールフェスク、イタリアン
肥料で牧養力は上がる

👉 最初は既存の草を利用、段階的に牧草を導入する

◆ 牧養力／放牧頭数

九州での目安（繁殖牛・180日）

✓ 粗放型：1～1.5頭／ha

✓ 集約型：2～3頭／ha



草の状態をみて加減する

難しいが出来るようになれば**放牧の鉄人**


◆ 放牧看視

➤ 草量、牛を見る

- ✓ 草、反芻、啼いていないか
- ✓ 群れ外牛、跛行はないか
- ✓ BCS、毛艶
- ✓ ダニ、アブ、ハエ
- ✓ 発情していないか

➤ 施設を見る

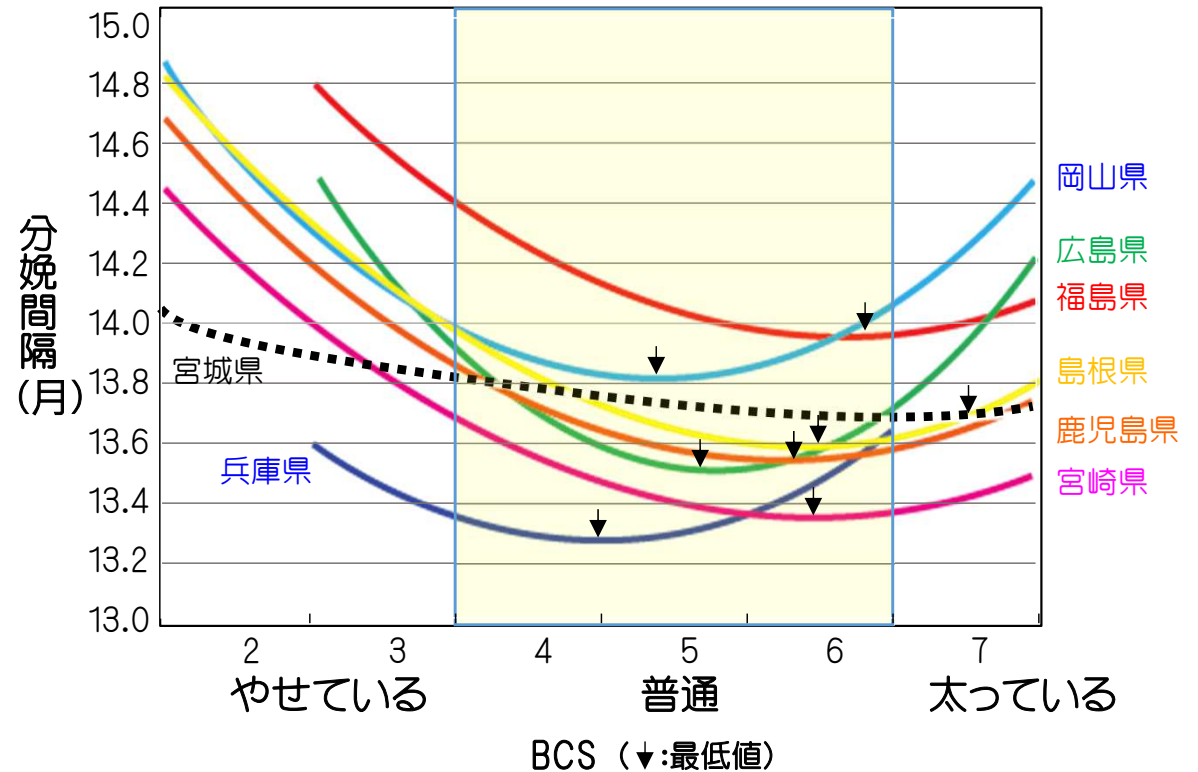
- ✓ 牧柵、水場

 異常があれば直ぐに対応

◆ 栄養管理

👉 BCSを普通に保つ

- ✓ やせ過ぎ・太り過ぎ
→繁殖悪化や分娩間隔
に悪影響
- ✓ 急激に痩せさせない
- ✓ 高タンパク過多を避ける



(情報提供:島田、第7回全国和牛能力共進会の成果と成果をもたらした背景、和牛誌 第204号、1998、加工)

◆ 牛の扱いと安全

➤ 調教

- ✓ 子牛の時から優しく接する
- ✓ エサで手懐けるなど、スキンシップを図る

➤ 除角

➤ ヒヤリハットは共有

 神経質な牛は放牧しない

- **作業日誌を付ける（放牧・草地管理内容など、なんでも記録）**
 - **他の放牧経営を見学し、交流する**
- 👉 記録しない経営は改善できない**

これだけ覚えておいて下さい

- **放牧の鍵は技術ではなく管理**
- **馴致**
- **看視**
- **記録**

放牧は「草」よりも「人」の問題

-  **各地に実績があり、再現性はある**
- 条件の悪い土地ほど、放牧が力を発揮する**

終わり

放牧アドバイザーもお使い下さい

放牧技術の現地相談を行う「放牧アドバイザー」を
日本草地畜産種子協会は基本、無料で派遣します。

気軽にお申し込み下さい
<http://souchi.lin.gr.jp/>

草地協会 で検索！



放牧アドバイザー 梨木 守、(一社)日本草地畜産種子協会
〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町8番地 NCO神田紺屋町ビル4F
TEL : 090-2161-7040、E-Mail:na493@yahoo.co.jp